

旧大分海軍航空基地慰霊祭



愛知県神社庁は、毎年国内海外の戦地を訪ねて慰霊祭を斎行し、戦没者を慰霊し同時に世界の平和を祈る旅を実施している。本年も「旧大分海軍航空基地慰霊祭」として、昭和20年8月15日最後の特攻により散華された宇垣纏中将を始めとして18名の方々、また先の大戦で亡くなられた英霊の御霊を慰めるべく、小串和夫庁長を団長とし、県内より217名の参加者を得て取り行われた。



5月27日早朝、名古屋駅を出発した一行は、翌28日大分県大分市大洲運動公園内神風特別攻撃隊慰霊碑の前にて、三浦正典教化委員長齋主の下、大分県神社庁長神日出男氏・大分県護国神社宮司小野日隆氏を来賓として慰霊祭を斎行した。

当日は早朝から生憎の空模様であったが、往時を偲びひたすらに慰霊の誠を捧げる参列者の心に応えるかのように、祭典中は雨も声を潜める様に止み、時が止まるかの如き静寂の中での祭典であった。愛知県内より遠路を真心込めて持参した日本酒、水、菓子などの庭積神饌は所狭しと供えられ、愛知県護国神社の舞姫によるみたま慰めの舞は英霊方々の心永久に静かなれとの想いを伝えるかのようにであった。愛知県神社総代会副会長 神尾俊治氏による慰霊の言葉奉読の後、参列者全員が愛知県内より持ち込まれた榊で調製された玉串を献じ拝礼を終えた。祭典後、牧野武彦副庁長また沖縄県神社庁長神日出男氏の挨拶があり、祭典はつつがなく終了した。

慰霊祭後、一行は福岡県筑前町の大刀洗平和記念館を訪れ、国のため命を捧げた若者たちに更なる思いを寄せながら愛知県内へ戻った。